

「外国語活動」のポイント～全面実施に備えて～

全職員体制による研修や準備を

外国語を用いたコミュニケーション能力の素地を養うためには、その楽しさを実感できるようにすることが大切です。そのために、全面実施となるまでに、次のことを踏まえて、全職員体制による研修や準備を進めていきましょう。

- ・ 外国語活動の導入の経緯、目標、内容等の理解は十分ですか
- ・ 指導法や英語の運用能力を高める研修を実施していますか。
- ・ 指導計画は十分に検討されていますか
- ・ 校区内の小小・小中の情報交換や連携は進んでいますか



こんな内容についての研修は済みましたか？

充実した活動を展開するために

授業では、外国語を用いてコミュニケーションを図り、言語や文化に対する体験的な理解を促し、外国語の音声や基本的な表現へ慣れ親しませていくことが活動の中心となります。不安や緊張を感じさせずに、楽しく充実した活動が展開されるように、以下の点も踏まえて働きかけを工夫しましょう。

[目からとらえさせる工夫]

- ・ 絵や写真、実物など具体物を提示する。
- ・ 身振りや手振り、ジェスチャーを取り入れる。

[耳からとらえさせる工夫]

- ・ 単語やフレーズで英語を話す。
- ・ 話す速さに留意する。
(新たに出会う基本表現や単語はゆっくりと発話する。)
- ・ 繰り返しを大切にする。

レッスンの目標を具体的な姿で評価しよう

授業の中で現れる児童の姿

振り返りカードの記述
取組・発言の様子など

記述式で評価

評価の観点のひとつ、「音声や基本的な表現に慣れ親しむ」は、どう評価すればよいのだろうか…という声がよく聞かれます。外国語活動では、文章記述で評価を記載しますが、単に「〇〇した」と活動を書けばよいわけではないところに難しさがあるようです。この場合も、教師が、あらかじめ「慣れ親しむ」とはどういう姿か具体的にイメージし、明確な観点をもって授業に臨むことが大切になります。

特集1 体力向上ジャンプアップ

新潟市教育ビジョンでは、「健やかな体」を目指し、体力向上の取組をしています。その1つが「体力向上ジャンプアップ」です。これまでは、各学校の取組の提出でしたが、今年度は印刷配布しました。これは、情報の共有により自校の取組の改善に生かすためのものです。今回はその全体の傾向を分析し、効果を上げている学校を紹介します。

家庭・地域・大学等との連携を

今年度提出された「体力向上ジャンプアップ」では、小学校・中学校・中等教育学校ともに以下のような傾向がありました。

- ① 学校全体の取組として、「遊具の開放」「休み時間の延長」「6年間の縄跳びカード」「強調週間」などを実施している学校が多い。
- ② 授業改善の取組では、「学習カード」「めあて設定」「学習資料の提供」「教員の実技研修会」などを中心に、各学校で工夫されている。
- ③ 家庭との連携は多くの学校で実施されているが、おたよりの配付等による一方向の啓発がほとんどである。
- ④ 地域や大学等と連携している学校は、数校程度にとどまっている。

平成22年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、家庭・地域・大学等との連携に注目した調査が行われています。「直接的な体力向上」と「環境としての体力向上」とが、両輪のように機能することを目指しましょう。



家庭との連携により効果を上げた早通小学校

早通小学校は、平成21年度の体力テストで、全国平均を超えた種目の割合が80%近くになっています。どのような取組によって効果を上げているのでしょうか。

<取組1> 学校全体の取組と授業改善が連動

早通小学校では、学校行事に合わせて、「マラソン」「鉄棒」「縄跳び」の強調月間を設けています。また、それに連動し、「体づくり運動」の内容を「体力アップスキル」として工夫し、授業に取り入れています。

さらに、週一回、縦割り班ごとに遊ぶ時間を設定しています。

<取組2> 毎月1週間の生活習慣アップカード

運動の面だけでなく、健康の面にも力を入れているのが大きな特徴です。

「生活習慣アップカード」を毎月1週間家庭に持ち帰り、生活の振り返りを行い、保護者のコメントを添えて担任に提出します。担任は、それをもとに生活習慣改善の取組をします。

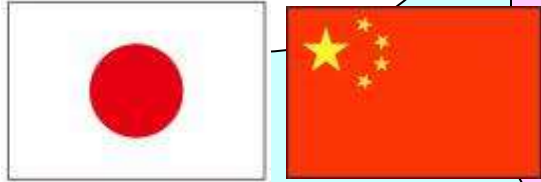
このように、学校全体の取組と家庭の連携が効果的に機能することによって児童の体力が向上しています。



特集2 ハルビンとの国際交流

平成22年度
新潟市国際交流推進事業

ハルビン市 青少年使節団 新潟市訪問



7月14日（水）から7月18日（日）まで、中国ハルビン市の小学生16名と引率4名が、新潟市を訪れ、児童と交流を深めました。

主な日程は、次のとおりです。

- 14日（水） 来日，市長・教育長表敬訪問
- 15日（木） 学校訪問
- 16日（金） 市内見学
（新潟市歴史博物館，新潟市水族館，東北電力ビッグスワンスタジアム，天寿園）
中国総領事館訪問
- 17日（土） 市内見学
（しろね大凧と歴史の館，ビュー福島潟，せんべい王国）
- 18日（日） 離日

7月15日（木）は，午前市之瀬小学校を，午後白山小学校を訪問しました。

市之瀬小学校では，全校での歓迎集会と授業体験がありました。歓迎集会では，全校児童によるゲームと歌で歓迎を受けました。授業体験では，習字をしたり，中国から伝わった言葉を題材にした国語の授業に参加したりして，楽しく，また，お互いのためになる一時を過ごしました。（写真1）



写真1 市之瀬小学校にて

白山小学校では，万代太鼓や新潟甚句による歓迎会の後，「国際子どもフォーラム」に参加しました。フォーラムに参加した小学生30人は，漢詩を題材とした授業を受け，ハルビン市の児童から中国語での読み方を教えてもらうなど交流を行いました。（写真2）



写真2 白山小学校にて

「国際子どもフォーラム」は，平成19年度から始まった事業で，コミュニケーション能力の育成及び文化等の相互理解を目的としています。事後のアンケートによると，参加者にとって役に立ったことがうかがえ，これをきっかけとして，諸外国の人々との相互理解に対する意欲が増すことが期待されます。

市内見学では，市内の施設を見学し，実際に凧を上げてみたり，せんべいを焼いて食べてみたりと，ほかではできない貴重な体験をすることができました。

5日間の滞在でしたが，日中双方の児童に良い刺激を与える機会となりました。多忙の中，御協力いただきました関係者の皆様に，厚く御礼申し上げます。

にいがた教育知図

大鷲小学校 ～エコキャップの回収で思いやりの心の育成を～ ～小中一緒の家庭学習強調旬間で学力の向上を～

「ペットボトルキャップ回収中 800個で一人の命が救えます 目標 10,000個！」児童会のエコボランティア委員会を中心に「エコキャップキャンペーン」に取り組んでいます。今年で3年目です。児童玄関前にキャップ入れの箱が常時用意され、子どもたちは家庭でキャップがたまると学校に持参します。

世界中でワクチンの接種を受けられずに1日6,000人の子どもたちの尊い命が消えています。そうした現状を変えるために「使用済みのペットボトルのキャップを集め、それをリサイクルメーカーに売却する。そのお金で世界の子どもたちにワクチンを届ける」運動が行われています。さらに、キャップをリサイクルすることで、焼却処分によるCO₂の発生や、埋め立て処分による土壌汚染を抑制することもできる運動です。この運動をとおして、思いやりの心と環境保護の意識が育ってくれることを願っています。

また、大鷲小は、家庭学習の習慣化と個別指導に力を入れ学力が向上しています。家庭学習強調旬間は年5回実施しています。特に、今年は、小中連携して、第2回の家庭学習強調旬間を白根北中学校の中間テストの時期に合わせ設定しました。同じ中学校区の小・中学校の子どもたちが家庭の中で一緒に学習に取り組む姿を期待しています。



(文責 南区指導主事 長澤宗英)

横越中学校 「少人数・小集団学習で、 学力とコミュニケーション力の向上を」



横越中学校では、1年から3年までの「ライフスキル教育横越中学校バージョン一覧表」を作成して、良好な人間関係作りに力を入れています。また、目指す生徒像の一つに、「確かな学力を身に付け、自ら考え、自ら学ぶ生徒」があります。

そこで、両方の観点から、日々の授業では小集団学習による話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、数学と英語の授業は少人数学級を編制して行っています。このような取組の成果が表れ、今年度のNRTの結果は数学がどの学年も全国平均を上回り、特に、3年生は2年前に行った1年生の時の偏差値を上回るほどでした。

また、英語の授業ではドリルだけでなく、ペアや3～4人のグループで生きた英語のやり取りを行うことを心掛けています。昨年訪問では、疑問文の形や答える文を習った後、ペアになった相手から疑問文に答えてもらったり、グループで順番にジェスチャーをして、何をしているか英語で質問させたりする学習活動を参観することができました。生き生きと学習に取り組む生徒の表情が、とてもすてきでした。

(文責 江南区指導主事 佐藤 重勝)